

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和5年第32週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (32 週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 3 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2 例。
4 類感染症：レジオネラ症 1 例。5 類感染症：ウイルス性肝炎 1 例、梅毒 2 例、破傷風 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	男	結核性胸膜炎	発熱、呼吸困難
		延岡	60歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			80歳代	男	肺結核	なし
3類	腸管出血性大腸菌感染症	延岡	40歳代	男	—	水様性下痢、O157(VT1VT2)
		日向	10歳代	男	—	腹痛、水様性下痢、嘔吐、発熱、O157(VT1VT2)
4類	レジオネラ症	小林	40歳代	男	肺炎型	発熱、呼吸困難、肺炎
5類	ウイルス性肝炎	宮崎市	30歳代	男	B型	全身倦怠感、褐色尿、食欲不振
	梅毒	都城	50歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	鼠径部リンパ節腫脹
		高鍋	30歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
	破傷風	宮崎市	60歳代	女	—	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、瘻笑

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 1,644 人(定点当たり 32.9)で、前週比 67%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、手足口病及びヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【新型コロナウイルス感染症】

報告数は 1,025 人(17.7)で、前週比 68%と減少した。延岡(40.6)、日向(20.5)、中央(18.5)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【インフルエンザ】

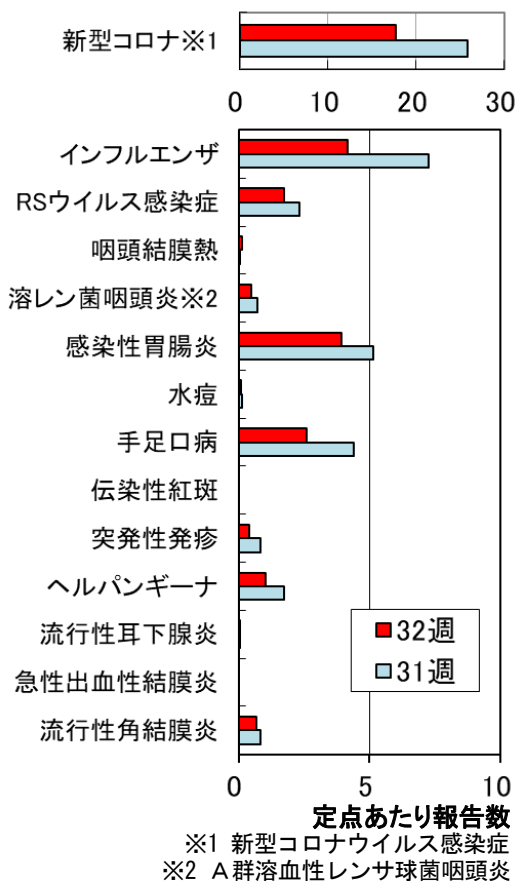
報告数は 241 人(4.2)で、前週比 57%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.04)の約 111.3 倍であった。日向(14.2)、日南(8.4)、中央(6.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【手足口病】

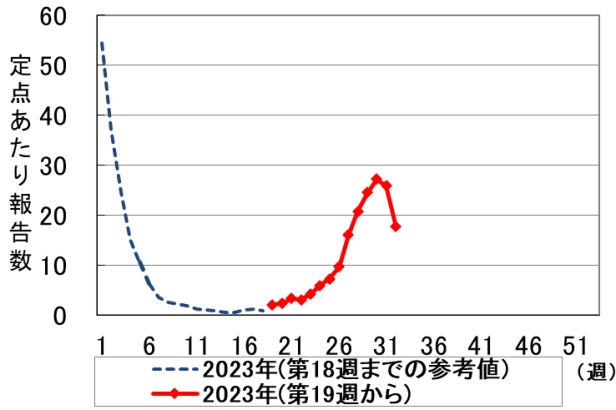
報告数は 93 人(2.6)で、前週比 59%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.3)の約 2.0 倍であった。延岡(10.0)、日向(5.5)、中央(5.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は 6 ヶ月から 4 歳が全体の約 9 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均

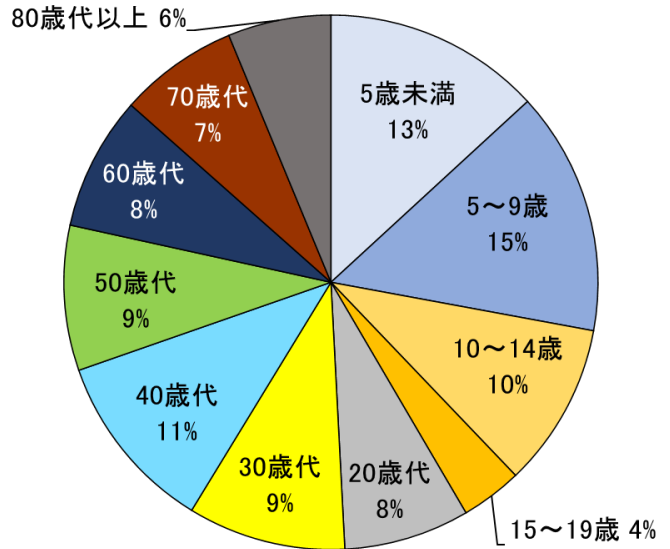
《前週との比較》



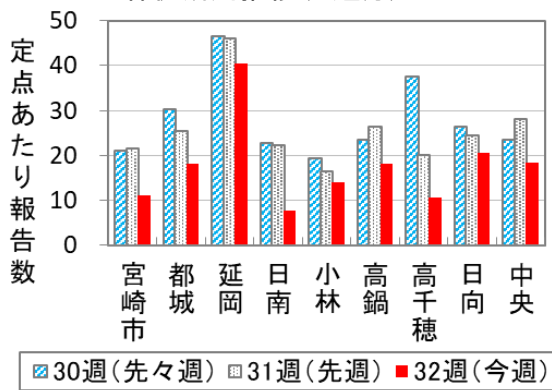
新型コロナウイルス感染症 発生状況



新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第32週)

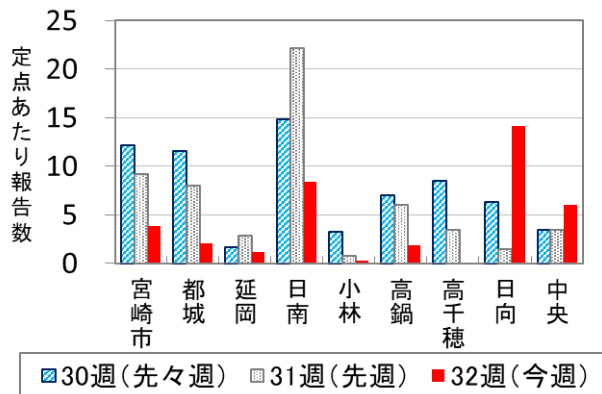


新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)

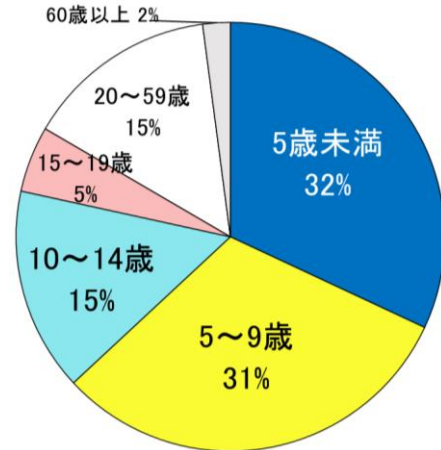


※新型コロナウイルス感染症の第1週~第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

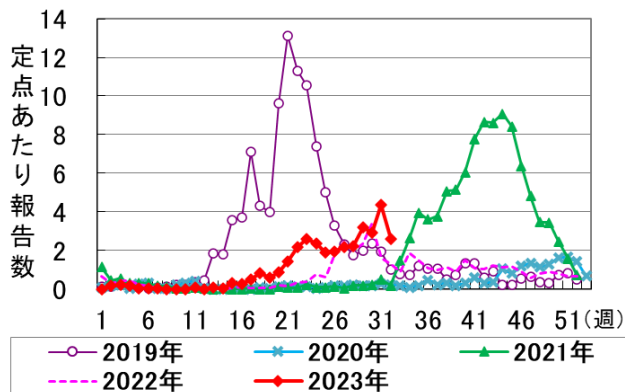
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



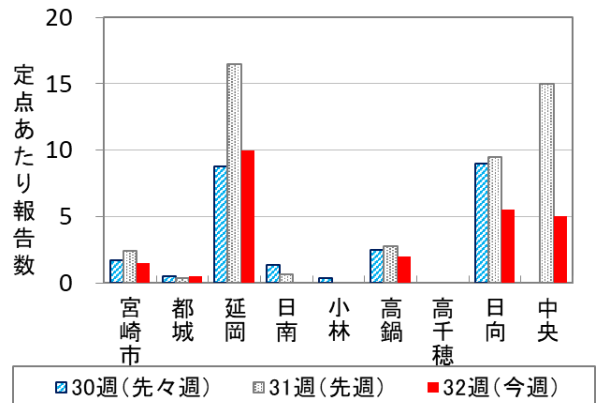
インフルエンザ年齢群別グラフ(第32週)



手足口病 発生状況



手足口病 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	手足口病(10.0)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	インフルエンザ(14.2)、手足口病(5.5)
中央	手足口病(5.0)

* 流行警報レベル開始基準値*
・手足口病(5)

* 流行注意報レベル基準値*
・インフルエンザ(10)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年8月14日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(OUT:H21)	10歳代	女	2023.07.06	発熱(39.0℃)、 胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐、腹痛)	便	2023.07.21
EPEC(OUT:H40)	5～9歳	女	2023.07.10	発熱(38.5℃)、胃腸炎(腹痛)	便	2023.07.21
<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> (I) (血清型不明)	10歳代	男	2023.07.10	発熱(40.0℃)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.07.27
EPEC(OUT:H7)	5～9歳	男	2023.07.12	胃腸炎(水様性下痢)	便	2023.07.27
<i>Salmonella</i> Oranienburg (O7:m,t:-)	10歳代	女	2023.07.14	発熱(37.7℃)、尿路生殖器症状(膀胱炎)	尿	2023.07.21

○10歳代の男性から *Salmonella enterica* subsp. *enterica* が分離された。サルモネラ属菌は、哺乳類・爬虫類・両棲類・川及び食品に広く分布し、*S. enterica* と *S. bongori* の2菌種に分けられる。*S. enterica* はさらに、*enterica*、*salamae*、*arizonae*、*diarizonae*、*houtenae*、*indica* の6亜種が存在する。このうち、感染症や食中毒として重要となるのは *Salmonella enterica* subsp. *enterica* であり、毎年多数の血清型が報告されている。血清型不明の場合には、疫学情報等も考慮し、生化学試験等を追加して菌種を同定していく必要がある。

また、10歳代の女性から *S. Oranienburg* が分離された。*S. Oranienburg* は、2018年8月に鹿児島県内で散発事例が複数発生したことが報告されている(IASR Vol. 40 No. 5(2019. 5))。報告では、いずれも血液から分離され、重症例も多く見られている。非チフス性サルモネラ属菌の菌血症は感染症発生动向調査の対象ではないが、これまでに *S. Oranienburg* の集団食中毒事例も報告されていることから、今後も注意が必要な血清型と考えられる。

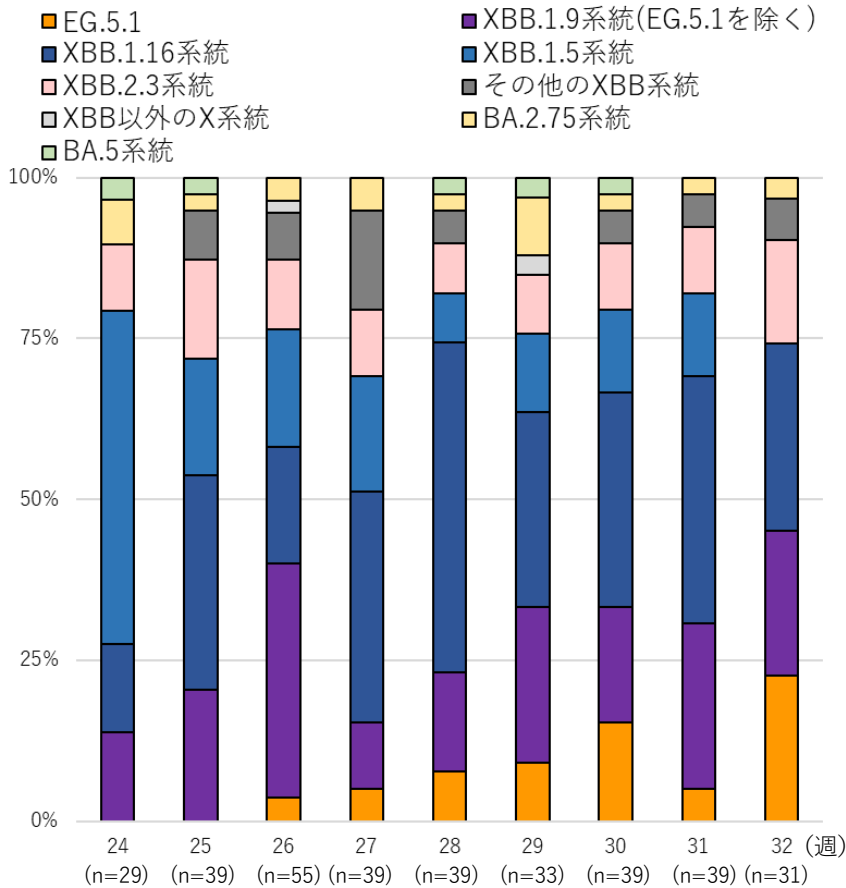
★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
RS virus	0～4歳	女	2023.06.19	急性気管支炎、39.0℃	鼻汁	2023.08.08
Influenza virus AH3	10歳代	女	2023.06.22	A型インフルエンザ、39.3℃	咽頭ぬぐい液	2023.08.07
Influenza virus AH3	5～9歳	男	2023.06.26	A型インフルエンザ、39.2℃	咽頭ぬぐい液	2023.08.07

○インフルエンザと診断された2名からインフルエンザウイルス AH3 が分離された。県内では8月現在でも定点医療機関あたり報告数が1以上であり、流行期が継続している。

□新型コロナウイルスゲノム解析結果情報（衛生環境研究所微生物部）

新型コロナウイルスゲノム解析週と検出系統



XBB 系統は第 32 週で約 97%を占め、そのうち XBB. 1. 16 系統が約 29%、EG. 5. 1 (XBB. 1. 9. 2 系統) が約 23%を占めた。

「X」で始まる名前は遺伝子組換えで発生した系統に付けられる。

XBB は BJ. 1 (BA. 2. 10. 1 系統) / BM. 1. 1. 1 (BA. 2. 75. 3 系統) の組換え株である。

ゲノム解析は概ね前週の検体を用いて実施している。なお、解析検体数が多くない場合は割合の変動が大きくなる。

衛生環境研究所においては、県内医療機関の協力のもと、新型コロナウイルスの PCR 陽性となった検体を毎週収集し、ゲノム解析を実施している。

📊 全国 2023 年第 31 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	259 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	115 例	腸チフス	2 例		
4類感染症	E型肝炎	7 例	A型肝炎	1 例	重症熱性血小板減少症候群	6 例
	デング熱	2 例	日本紅斑熱	15 例	マラリア	2 例
	レジオネラ症	34 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	7 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	33 例
	急性弛緩性麻痺	2 例	急性脳炎	13 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	5 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	18 例	後天性免疫不全症候群	10 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	24 例	水痘(入院例)	4 例	梅毒	202 例
	播種性クリプトコックス症	3 例	破傷風	4 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	百日咳	18 例	風しん	2 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 93%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は咽頭結膜熱で、減少した主な疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症、伝染性紅斑及びヘルパンギーナであった。

インフルエンザの報告数は 7,090 人(1.4)で前週比 88%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.05)の約 27.3 倍であった。鹿児島県(7.6)、宮崎県(7.2)、福岡県(5.7)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 77,937 人(15.8)で前週比 99%とほぼ横ばいであった。佐賀県(34.7)、長崎県(28.5)、宮崎県(25.8)からの報告が多く、年齢群別では 20 歳未満が全体の約 3 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2023年7月>

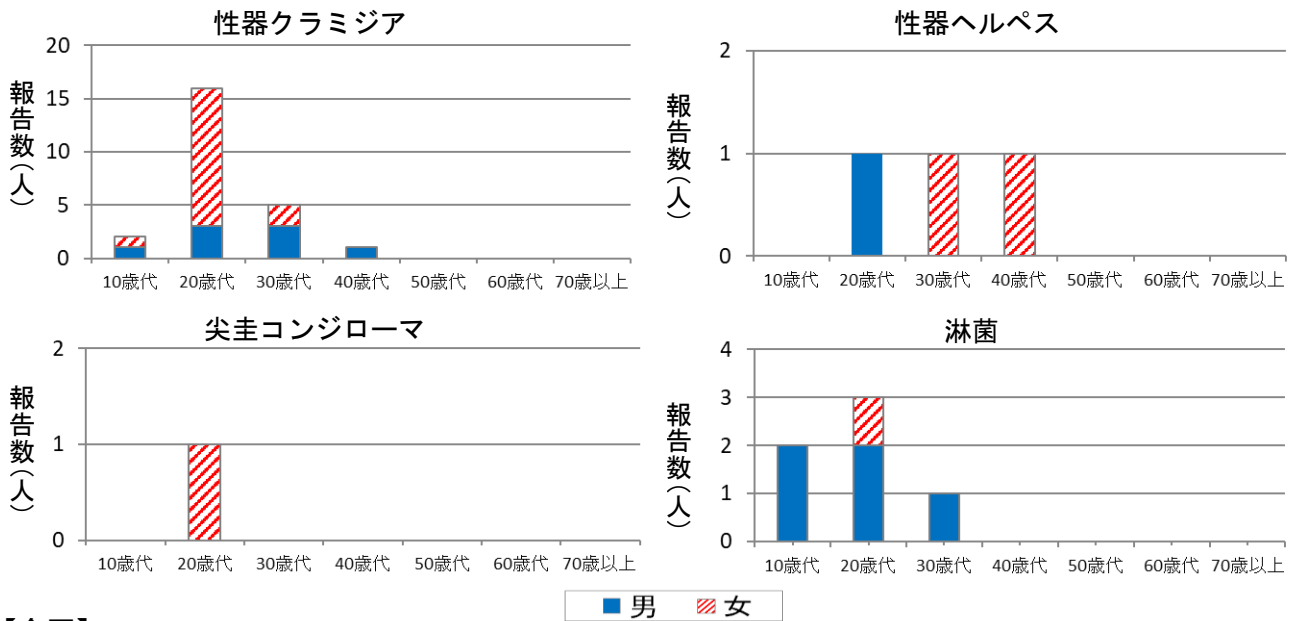
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は34人(2.6)で、前月比77%と減少した。また、昨年7月(3.7)の約0.7倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数24人(1.9)で、前月と同程度、昨年7月の約0.9倍であった。
20歳代が全体の約7割を占めた。(男性8人・女性16人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数3人(0.23)で、前月の0.5倍、昨年7月の約0.3倍であった。(男性1人・女性2人)
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月の約0.1倍、昨年7月と同率であった。
(女性1人)
- 淋菌感染症：報告数6人(0.46)で、前月と同率、昨年7月の約0.5倍であった。
(男性5人・女性1人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,775人(4.8)で、前月比94%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,623人(2.7)で前月比91%、性器ヘルペスウイルス感染症782人(0.79)で前月比93%、尖圭コンジローマ581人(0.59)で前月比95%、淋菌感染症789人(0.80)で前月比101%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は22人(3.1)で、前月比129%と増加した。また、昨年7月(3.4)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数22人(3.1)で、前月の約1.3倍、昨年7月の約0.9倍であった。70歳以上が全体の半数を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,364人(2.9)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,246人(2.6)で前月比102%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症107人(0.22)で前月比110%、薬剤耐性緑膿菌感染症11人(0.02)で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2023年 第32週(08月07日～08月13日)

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	420	241	61	21	8	42	1	11		85	12
	定点当り	7.24	4.16	3.81	2.10	1.14	8.40	0.25	1.83	0.00	14.17	6.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	1499	1025	176	181	284	38	56	109	21	123	37
	定点当り	25.84	17.67	11.00	18.10	40.57	7.60	14.00	18.17	10.50	20.50	18.50
RSウイルス感染症	報告数	83	62	15	15	10	5	2	7		7	1
	定点当り	2.31	1.72	1.50	2.50	2.50	1.67	0.67	1.75	0.00	1.75	1.00
咽頭結膜熱	報告数	2	5	1	1	1	1					1
	定点当り	0.06	0.14	0.10	0.17	0.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	26	18	4	2	1	1	2	2		5	1
	定点当り	0.72	0.50	0.40	0.33	0.25	0.33	0.67	0.50	0.00	1.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	185	141	44	27	1	14	23	3		21	8
	定点当り	5.14	3.92	4.40	4.50	0.25	4.67	7.67	0.75	0.00	5.25	8.00
水痘	報告数	5	3			1	1	1				
	定点当り	0.14	0.08	0.00	0.00	0.25	0.33	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	158	93	15	3	40			8		22	5
	定点当り	4.39	2.58	1.50	0.50	10.00	0.00	0.00	2.00	0.00	5.50	5.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	30	14	6		1	2	2	2		1	
	定点当り	0.83	0.39	0.60	0.00	0.25	0.67	0.67	0.50	0.00	0.25	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	62	37	4	2	3		1	3	1	23	
	定点当り	1.72	1.03	0.40	0.33	0.75	0.00	0.33	0.75	1.00	5.75	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	1			1						
	定点当り	0.03	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	5	4	3		1						
	定点当り	0.83	0.67	1.00	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～32週保健所受理分)

2類感染症	結核	72例(3)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9例(2)	腸チフス	1例
	重症熱性血小板減少症候群	12例	つつが虫病	10例
4類感染症	レジオネラ症	3例(1)		日本紅斑熱 6例
	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	6例(1)
5類感染症	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	9例	水痘(入院例)	2例
	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	2例(1)
			カルバベナム耐性腸内細菌感染症	1例
			クロイツフェルト・ヤコブ病	3例
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例
			梅毒	114例(2)
			百日咳	4例

()内は今週届出分、再掲